



No.91 2009・4・10

ISHIKAWA-KEN HISTORY MUSEUM

発行 石川県立歴史博物館  
〒920-0963 金沢市出羽町3番1号  
TEL.076(262)3236 FAX.076(262)1836  
<http://www.pref.ishikawa.jp/muse/rekihaku/>



ISHIKAWA-KEN  
HISTORY  
MUSEUM

れきはく

春季特別展

# 肖像画にみる加賀藩の人々



石川県指定文化財  
円智院(篠原一孝夫人)画像 金沢市 妙法寺蔵

会期中、一部展示替を行いますのでご了承下さい。

会 期

4月18日(土)~5月26日(火)

会 場 第1・第2特別展示室

共 催 北國新聞社

後 援 ㊤㊤㊤ 金沢放送局・北陸放送・テレビ金沢  
金沢ケーブルテレビネット・エフエム石川  
ラジオかなざわ・ラジオこまつ・ラジオななお

開館時間 午前9時~午後5時

(入館は午後4時30分まで)会期中無休

入 館 料 一 般 700円(560円)

大学生 550円(440円)

高校生以下無料 65歳以上は560円

( )内は20名以上の団体料金

講演会 聴講無料

日 時 4月26日(日)午後2時~3時30分

会 場 学習ホール

講 師 摂南大学外国語学部教授 岩間 香 氏

演 題 近世の肖像画

申込不要・当日受付へお申し出下さい。

ギャラリートーク 入館料が必要

日 時 4月18日(土)・25日(土)

5月10日(日)・17日(日)

いずれも午後1時30分~

会 場 第1・第2特別展示室

聴講料 特別展観覧料

れきはくメイト会員は会員証提示により無料。

申込不要・当日受付へお申し出下さい。

春季特別展

肖像画にみる加賀藩の人々

肖像画は、我が国にあつて、尊崇や追慕のための礼拝像や供養像、教訓的な鑑戒像、あるいは記念などの目的により多種多様なものが描かれ特殊な発展をとげました。

本展は加賀藩に關係する肖像画について、数多くのこされている前田利家像をはじめ、妻たち、当家臣団、それに学者・書家・僧侶・十村・肝煎・町人・茶人・職人・絵師・俳人・芸能人など幅広く展示し、併せて下絵類も紹介します。

肖像画制作の経緯や、その魅力を探ります。

- ◎ 重要文化財 □ 石川県指定文化財
- 重要美術品 △ 市町指定文化財

1 武家と妻たちの肖像画

(1) 前田利家と父母・妻

前田利家の父・利春や母・長齡妙久、それに利家と妻・芳春院(まつ)の肖像画を紹介します。

前田利家は、慶長四年(一五九九)閏三月三日、六十三歳で没しましたが、束帯姿を中心にかんりの数の肖像画がのこっています。また加賀藩士の士氣を高めるため描かれた記念的な「前田利家桶狭間凱旋図」も岸派や狩野派、あるいは有名無名の絵師たちにより制作されました。



前田利家画像 個人蔵

◎前田利春画像

□○長齡妙久(前田利春夫人)画像

□前田利家画像

△前田利家画像

△前田利家画像

前田利家画像

前田利家画像

前田利家画稿

△前田利家画像

△前田利家画像

△芳春院(前田利家夫人・まつ)画像

慶長十四年(一六〇九)春屋宗園賛

金沢市 桃雲寺蔵

前田利家桶狭間凱旋図 岸良筆

当館蔵



前田菊姫画像 大津市 西教寺蔵

(2) 前田利家の兄弟・子供 藩主関係

前田利家の兄・安勝や、長男・利長、次男・利政、四男・利常、利家の六女菊姫、それに後代の藩主の肖像画を紹介します。

中でも、天正十二年(一五八四)、七歳で亡くなった利家の六女・前田菊姫の肖像画は、子供の遊ぶ玩具なども描かれ、幼児像として注目されます。

また、「泰雲院様御影作図資料」は、天明六年(一七八六)に亡くなった十代藩主前田重教の肖像画制作に係わる一件資料で、藩主の肖像画制作の手順・約束事がわかり貴重なものです。

△前田安勝画像 七尾市 長齡寺蔵

△前田利政画像 七尾市 長齡寺蔵

△前田菊姫画像 天正十二年(一五八四)真智上人賛 大津市 西教寺蔵

泰雲院様御影作図資料 六代梅田九栄筆 天明六年(一七八六)個人蔵

前田齊泰画像 明治十六年(一八八三)五姓田芳柳筆 金沢市尾山神社蔵

(3) 藩士と妻たち

前田利家の家臣から幕末まで、肖像画が残る加賀藩士と、その妻たちを紹介します。

中でも、石川県

文の「円智院(篠原一孝夫人)画像」(金沢市・妙法寺)

は、前田利家の弟

良之の娘であり、

豪華な内掛を着た

姿に表されています。

没年の慶長三年(一五九八)の

書込があり、表具には辻が花染の裂が用いられ、召

し物の可能性があり注目されます(表紙写真)。

金沢市文「長寿院(長久院・高畠定吉夫人・津世)

画像」(金沢市・長久寺)は、慶長十五年(一六一〇)に亡くなった前田利家の妹で、同十三年の賛より生前の姿を表した寿像であることがわかります。



松寿院(奥村永福夫人・やす)画像  
金沢市 永福寺蔵



長寿院(長久院・高畠定吉夫人・津世)画像  
金沢市 長久寺蔵

られています。

△高畠定吉画像

慶長八年(一六〇三) 贊

金沢市 長久寺蔵

△長寿院(長久院・高畠定吉夫人・津世)画像

慶長十三年(一六〇八) 愚庵春智贊

金沢市 長久寺蔵

青山吉次画像

慶長十七年(一六二二) 広山愨陽贊 個人蔵

金沢市 永福寺蔵

○奥村永福画像

翰山贊

金沢市 永福寺蔵

□松寿院(奥村永福夫人・やす)画像

金沢市 永福寺蔵

□山崎長国画像

慶長九年(一六〇四) 広山愨陽贊

金沢市 常松寺蔵

○長好連画像

七尾市 悦叟寺蔵

寺西秀則画像

金沢市 瑞雲寺蔵

今枝重直画像狩野探幽筆石川丈山贊

京都市 蓮華寺蔵

□前田土佐守直躬画像

矢田四如軒筆

宝曆十三年(一七六三) 贊

前田土佐守家資料館蔵

□本多政重画像

沢庵宗彭贊

富田景周画像

富田景煥贊

横山隆盛画像

金沢市 松山寺蔵

富田景周画像

金沢市 慈雲寺蔵

2 学者・書家・僧侶・十村・肝煎・町人・茶人・職人・絵師・俳人・芸能人の肖像画

武家以外の人たちの肖像画を紹介します。様々な

職種の人たちに加え、肖像画を描いた中央の渡辺筆

山をはじめ、心岩・山崎雲山・矢田四如軒など、地元の絵師の活躍もみられます。



千代尼画像 磯田湖龍齋筆  
白山市立千代女の里俳句館蔵

◎市河米庵画像

天保八年(一八三七) 渡辺筆山筆

同九年(一八三八) 石川丈山贊

京都国立博物館蔵

金森宗和画像

奥村尚之贊

始祖長左衛門対仙叟居士像

忍道宗延贊

初代宮崎寒雄画像

宙宝宗宇贊

△心岩自画像

心岩筆

△山崎雲山自画像

山崎雲山筆

△河合見風画像

矢田四如軒筆

△千代尼自画像

安永二年(一七七三) 千代尼筆

白山市 個人蔵

3 肖像画粉本 御用絵師梅田家歴代の画業

前田利政画像粉本をはじめ、加賀藩の年寄衆・町人・俳人・僧侶など百四十四枚を紹介しています。原品

がわからなくなったものもあり、その意味でも貴重

です。本展を通じ、先人の面影を偲んでいただければ幸いです。(学芸主幹 北春千代)

### 貸出中の館蔵品

#### 他の施設でも見られる歴博の貴重資料

歴博の館蔵資料は総数約十六万点にも及びますが、その一部は、県内外を問わず、他館の展覧会に貸し出されるものが少なくありません。また放送局や出版社へのポジフィルムなどの貸し出しも、よく行われています。展覧会や催し物などに比べるとあまり知られていない業務ですが、これも博物館の重要な仕事のひとつなのです。

・「巽御殿絵巻」 佐々木泉玄筆

・「兼六園絵巻」 佐々木泉玄筆 ほか計二点

企画展「加賀藩主前田斉泰と前田土佐守家」

四月十八日(土)～七月十二日(日)

会場：前田土佐守家資料館

(金沢市・〇七六―一三三―一五六)

・兼六園讃「仰観俯察」額 木戸孝允筆

・時絵兼六公園書棚考案図幅

・「料亭山常楼」引札 ほか計七点

特別展「―知られざるサムライ・アート―大名庭園展」

四月二十一日(火)～五月三十一日(日)

会場：広島県立美術館

(広島市・〇八二―一三二―一六二四六)



兼六園讃「仰観俯察」額 木戸孝允筆



「巽御殿絵巻」佐々木泉玄筆

### 主な刊行物のご案内

石川県立歴史博物館展示案内 石川県立歴史博物館蔵品目録 冷泉家の歴史と文化 モダン調へ 蓄音機 太子信仰と北陸 聖徳太子へのあこがれ 永光寺の名宝 紀尾井町事件 武士の近代と地域社会 うさぎワンダーランド 祝い絵 ティスフレイの民俗誌 能楽 加賀宝生の世界 利家とまつ子の生きた時代 戦い・くらし・女たち 景勝をめぐる いしかわの景観史 いしかわの歌仙絵馬 風俗画伯 巖如春 都市の記憶を描く 源平合戦と北陸 義経伝説を育んだふるさと 加賀百万石への道 戦国から太平へ 昭和ワンダーランド モノでたどる戦後 石川のお宝史 名宝から文化財へ 弥生ムラの風景 越のクニ生み・境界・交流 御用絵師梅田九栄と俳諧 肖像画にみる加賀藩の人々(最新刊・四月十八日発売予定)	(税込定価)
一	〇〇〇円
二	〇〇〇円
三	五〇〇円
四	〇〇〇円
五	〇〇〇円
六	二〇〇円
七	二〇〇円
八	七〇〇円
九	七〇〇円
一〇	七〇〇円
一一	〇〇〇円
一二	二〇〇円
一三	九〇〇円
一四	二〇〇円
一五	四〇〇円
一六	四〇〇円
一七	六〇〇円
一八	二〇〇円
一九	〇〇〇円
二〇	三〇〇円
二一	二〇〇円
二二	三〇〇円
二三	三〇〇円
二四	三〇〇円
二五	価格未定

※総合カウンターで販売中。定価はすべて税込。郵送ご希望の方は、当館へ直接お問い合わせいただくか、当館ホームページ「刊行物案内(図録等)」をご覧ください。(電話〇七六―一六二―一三三三六)



### 行事日程(四月七月)

月日	行事	内容
4/26(日)	講演会	近世の肖像画 講師 摂南大学外国語学部教授 岩間 香氏
5/3(日)	常設スポット解説	「れきはくメイト情報」をご覧ください。 当館ホームページでもご案内しています。
5/16(土)	れきはくゼミナール	
6/7(日)	常設スポット解説	
6/20(土)	れきはくゼミナール	
7/5(日)	常設スポット解説	
7/18(土)	れきはくゼミナール	

開講時間：午後二時  
会場：講演会：学習ホール  
常設スポット解説：関係各展示室

れきはくゼミナール：学習ホール  
受講料：無料 常設スポット解説は無料。ただし他の展示もあわせて観覧の場合は入館料が必要。

申し込み：不要 当日受付へお申し出下さい。  
常設スポット解説  
常設展示室の資料を、当館学芸員がワンポイント解説します。毎月第一日曜日に実施。時間は午後二時から二時三〇分まで。どなたでもご参加できます。

れきはくゼミナール  
当館学芸員が歴史や文化に関する様々なテーマを取り上げてお話しします。原則として毎月第三土曜日に実施。時間は午後二時から二時三〇分まで。どなたでもご参加できます。



常設スポット解説



れきはくゼミナール



### 高校生の職場体験



トレーニングで、今年度から協力しているのです。月一回三人の生徒が参加し、学芸員の指導のもと、移築民家の清掃や展示資料の整理など様々な仕事を手伝ってもらいました。生徒たちにとっても、博物館での仕事は貴重な体験になったようで、毎回大変熱心に取り組んでくれました。お疲れさまでした！

三月八日、昨年から受け入れていた高校生による職場体験全日程が終了しました。これは石川県立金沢商業高校ツーリズムコース選択二年生によるキャリア

### 第五回石川の歴史遺産セミナー開催



二月一日、「白山麓と真宗」をテーマに、第五回石川の歴史遺産セミナーを開催。研究者や一般の皆様あわせて約八十名の参加がありました。今回は中近世における白山麓の地域社会のあり方を、浄土真宗という宗教の果たした役割から考えていこうとするものです。講師として北西弘氏、木越祐馨氏、澤博勝氏の三人をお招きし、参加の皆様と活発な討論が交わされました。

## 催事日録



三月十九、二十日、東宝映画「ゼロの焦点」(児童一心監督・今秋公開予定)の撮影が当館石引分室(旧陸軍金沢偕行社・同第九師団司令部庁舎)で行われました。同作品は原作者松本清張の生誕百年にあわせて製作されているものです。アカデミー賞受賞(「おくりびと」)で話題の広末涼子さんをはじめ、中谷美紀さん、木村多江さんといった人気女優に加えて、金沢市出身の鹿賀丈史さんも演技を披露。いつもは閑静な分室二館も大にぎわいの二日間でした。

三月二十二日、三十七日間に渡って開催されていた年度末恒例の企画展「れきはくコレクション」が終了。この企画は年度中に当館へ寄贈された資料を中心に、購入資料や未公開の資料なども合わせてご紹介するものです。今回も歴史、民俗、考古、美術各分野の様々な新資料を一挙公開。会期中には学芸員による列品解説も催され、数多くの皆様にご参加いただきました。



三月二十二日、三十七日間に渡って開催されていた年度末恒例の企画展「れきはくコレクション」が終了。この企画は年度中に当館へ寄贈された資料を中心に、購入資料や未公開の資料なども合わせてご紹介するものです。今回も歴史、民俗、考古、美術各分野の様々な新資料を一挙公開。会期中には学芸員による列品解説も催され、数多くの皆様にご参加いただきました。

### 東宝映画「ゼロの焦点」、当館でロケ

### 「れきはくコレクション2008」終了

**本多の森から**  
催事日録で紹介した映画ロケの作品「ゼロの焦点」は石川県が舞台。一九六一年に一度映画化(主演・久我美子)されており、実に四十八年ぶりのリメイクとなります。旧作はモノクロで重厚な雰囲気だったようですが、新作はどうなるでしょうか。秋の公開が楽しみです。新年度も六本の特別展と企画展、そして様々な催し物が企画されています。皆様のご来館をお待ちしています。

展示替えによる休館日(4~7月)

4月16日(木)	17日(金)	2日間
5月27日(水)	28日(木)	2日間
6月3日(水)	4日(木)	3日間
7月13日(月)	17日(金)	2日間

**次回の展覧会**  
夏季特別展  
春日懐紙・春日本万葉集とふるさとの文芸

7月18日(土)~8月31日(月) 第1特別展示室  
「春日懐紙」とは鎌倉時代中期、春日大社を中心とする神官、僧侶らが詠んだ和歌を懐紙にしたためたもので、その裏面に万葉集を書き写したものが「春日本万葉集」です。加賀藩前田家が所蔵していた「春日本万葉集」のうち、当館所蔵の「春日懐紙」十七葉を中心に、戦国から江戸時代にかけての加賀能登の文芸の歴史を紹介します。

春日懐紙

春日本万葉集

兼六園周辺文化の森活性化企画展

KOSODE 百・華・繚・乱

丸紅所蔵衣裳名品展

予告

総合商社・丸紅株式会社は、美術・工芸の幅広い分野にわたって優れた作品を所蔵しており、特に絵画と染織については、日本有数のコレクションと高く評価されています。

本展覧会では、四百点にのぼる丸紅の染織品コレクションから約六十点を展示し、近世の小袖を中心に、その系譜を受け継ぐ近代の着物を織り交ぜ、高い技術と美意識が生み出した華やかな衣裳の数々を紹介します。呉服の意匠研究の参考にするために収集された同コレクションは、服飾の歴史をたどる上でも貴重であり、これらを一堂に集めた展覧会は県内初となります。

最近では着物文化が見直され、ハレの日の盛装としてだけではなく、ファッションの一つとして和装をする人が若い世代にも増えてきました。本展覧会で紹介する衣裳は、当時の女性があこがれた多彩なデザインや装飾で、まさに「百華繚乱」の魅力にあふれています。流行や好みの移り変わりを知ると同時に、身にまとった人々の浮き立つような心や、衣裳に込められた思いを感じることができるとでしょう。

展示資料の中から、何点かをご紹介します。まずは「島取に柳文様小袖裂」。これは豊臣秀吉の側室・淀君所用の小袖の一部と推測される裂で、「辻が花染」と呼ばれる絞り染めにより文様が細やかに表現されています。これと、他所に残る裂や断片を元に、丸紅が三年半の歳月

をかけ小袖全体を復元し、平成十二年に完成しました。復元された「島取に柳文様小袖」は、左右で文様や配色を変えた片身替の意匠で、鮮やかな紅色や萌葱色が人目を引くものであったことが分かります。桃山時代の風情がうかがえる派手やかさがあり、まさに淀君の衣裳にふさわしいものです。



練習地島取に柳文様 辻が花染小袖裂



平絹地島取に柳文様 辻が花染小袖

次に「源氏物語文様友禅染繡小袖」です。十七世紀後半に登場したと言われる友禅染は、絵画的で繊細な表現を可能にし、創造性に富んだ多種多様なデザインの袖が次々と生まれました。この小袖は、腰から上は一部白く染め残し、そこに墨絵で源氏物語の場面を描き、さらに源氏物語の巻名を刺繍します。腰から下は友禅染で海辺の風景を華麗に表し、「明石」の巻を連想させます。



縮緬地源氏物語文様 友禅染繡小袖

り、意匠を尽くしたこの小袖は、当時の人の憧憬を表す優品です。

左は「松竹梅鶴亀文様絞染振袖」、全体を五段に分け、上から松、鶴、竹、菟、梅という吉祥文を手間のかかる鹿の子絞りで表した豪華な一領です。江戸時代後期になると、経済力をつけた町人は、一生に一度の婚礼のために、高度な技法を駆使し贅を尽くした衣裳をあつらえました。この振袖も、ふんだんに使われた吉祥のモチーフから婚礼衣裳と考えられ、現代も変わらない、嫁娘への親の思いが感じられます。



紅綸子地松竹梅鶴亀文様絞染振袖

この他、江戸時代前期の小袖や武家女性の衣裳、近代染織作家の名品などを展示予定です。どうぞご期待下さい。

会期 平成21年6月5日(金)~7月12日(日)  
 (前期 6月5日(金)~6月21日(日))  
 (後期 6月23日(火)~7月12日(日))  
 休館日 6月22日(月)展示替のため  
 会場 石川県立歴史博物館 第一特別展示室  
 時間 午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)  
 入館料 一般 650(520)円  
 大学生 500(400)円  
 高校生以下無料 ( )内は20名以上団体料金